

SEEDs支援事例：高校内のペットボトル分別促進ナッジ

【趣旨】

泉北高校の生徒が探究活動の一環で、ナッジを活用して校内のペットボトル分別を促進する実験を行うため、ナッジについての講義や資料の提供、実験設計の検討支援や効果検証手法の検討支援を行った。

【課題（ボトルネック）】

・ペットボトルを分別せず（キャップとラベルを外さず）ごみ箱に捨てる

【概要】

- 対象 泉北高校の生徒（2年生）
- 期間 2023年1月
- 内容
 - ①ペットボトルごみ箱を中身が見えるものに変更
（ごみ箱にキャップとラベルを分別したペットボトルを数本入れておく）
 - ②キャップとラベルの分別方法を案内する手書きポスターをごみ箱付近に掲示

グループ	クラス	介入内容
A	5組	①+②
B	1組、7組	①
C	2組、6組	②
D	3組、4組	なし



【活用したナッジ】

- ・ごみ箱の透明化による社会的圧力の付加（Social）
- ・ごみ箱前へのメッセージ掲示（Timely）
- ・手書きメッセージで関心を引く（Attractive）

【結果】

- ・ペットボトル分別率について、①と②両方の介入を行ったクラスでは47.3%、②のみのクラスでは32.1%の有意な向上を確認できた。
- ・異物混入率については、①と②の介入や、①のみの介入を行ったクラスで向上（混入率の低下）が見られた。

	ペットボトル分別率の前後差	対照群との差	異物混入率の前後差	対照群との差
グループA	+40.0%	+47.3%*	-20.0%	-21.9%
グループB	-3.7%	+3.6%	-6.4%	-8.3%
グループC	+24.8%	+32.1%*	+5.1%	+3.3%
グループD	-7.3%	-	+1.9%	-

※回帰分析により統計的有意性を検証

*：5%有意